

## スクラッチくじで2等5万円当てた話（ホント）

宝くじでまちおこしをしているところは、全国にたくさんある。

有名なのは佐賀の宝当神社である。ある人が、「宝当」という縁起のいい名前にあやかって島おこしをしようと考え、宝くじを入れておく袋（宝当袋）を開発して売り出した。ご利益あってその方の縁者から1等当選者が出て、続いて宝当袋を縫っていたおばちゃんからも当選する人が次々に出たらしい。そして、それがマスメディアに取り上げられ、大ブレイクした。

今では、当選祈願のために島に渡る人が増え、海上タクシー、レストラン、土産物売りなど雇用の場が生まれ、最近は一ターンした人までいるらしい。やはり、これからの時代は、交流人口が重要であると実感する。

熊本にも宝くじを当ててくれる神社がある。阿蘇の久木野には、当銭神社がある。わが家から、メルコロというパン屋さんに行く道の途中にあるが、昨年、突然のぼり旗が沿道に立ち、初めてその存在を知った。インターネットを覗いてみると、「実は、うちも当るんです」、「うちのレッサーパンダも立てるんです」のような、そんな神社が、日本中にあるようだ。

同じ阿蘇の小国町にも宝くじ伝説がある。中心商店街に、江戸の末期、湊屋という豪商がいて、この人はたいへん信心深い人だったそうである。ここには、鏡池という水源があり、恵比寿さまが祀られている。また、ケヤキ水源という、川岸に聳えるケヤキの大木の根元から水が湧き出しているところもあって、ここにも石の恵比寿さまがいらっしやる。湊屋さんは、毎日この水で身を清め、近くにある両（りょう）神社に商売繁盛を祈願していた。

ある夜、ケヤキ水源から川に流れ出すせせらぎを、宝船が流れに逆らって水源に入り込む夢を見て、これを吉兆と思った湊屋さんは、当時の宝くじである「富くじ」を買い、見事1等を引き当てた。・・・ここから先が本当の信心家の凄いところ。湊屋さんは、当選金を使い、水源から神社一帯の道を石畳にしたらしい。そして、その後連続3回、1等を当てた。計4回も。

小国町商工会と一緒に、この宝くじ伝説に基づくまちおこしを考えている。何しろ相手が神さまなので、こちらも信心しなければならぬと思い、まず、鏡池、ケヤキ水源、両神社に参拝し、ついでに神社の前のタバコ屋でスクラッチくじをした。2000円投資して、2等5万円が当たった。時計を見ると午後4時44分で、何か不思議なものを感じた。それで、湊屋さんにならぬ、その当選金（当りくじ）を商工会に全額寄付した。生まれてはじめての高額当選ではあったが、経緯が経緯だけに、ポケットに入れることはできなかった。（女房あきれぬ。）

先日、小国町に行き、同じように3社を回り、タバコ屋で3億円のジャンボくじを買った。「当たったら、まず家のローンを返して、残ったお金でケヤキを樹木医に見せ、そのまた残ったお金で をします」と両神社に約束した。 の部分は、まだ秘密にしておかねばならない。・・・当たれば、私の命をかけた大事業に取り組むことになる。吉兆を期待して、ケヤキ水源のせせらぎに笹船を浮かべてみた。船は、静かに流れを下り、大川に出ようとする。腹ばいになり、嘔き戻そうとしたがかなわない。水鏡に、恵比寿さまの逆さの顔が映っていた。